

製品名: フシンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11187**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	36kDa

抗原情報

遺伝子名	CXCR4
別名	CXCR4; C-X-C chemokine receptor type 4; CXC-R4; CXCR-4; FB22; Fusin; HM89; LCR1; Leukocyte-derived seven transmembrane domain receptor; LESTR; NPYRL; Stromal cell-derived factor 1 receptor; SDF-1 receptor; CD antigen CD184
遺伝子 ID	7852.0
SwissProt ID	P61073
免疫原	抗血清はヒト CXCR4 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 300-349

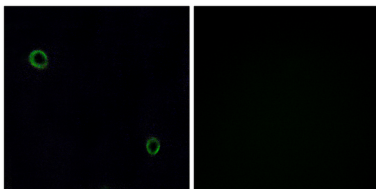
背景

C-X-Cモチーフケモカイン受容体4 (CXCR4) ホモサピエンス この遺伝子は、間質細胞由来因子1に特異的なCXCケモカイン受容体をコードしています。このタンパク質は7つの膜貫通領域を持ち、細胞表面に位置しています。CD4タンパク質と共働してHIVの細胞内侵入を促進し、乳がん細胞でも高発現しています。この遺伝子の変異は、WHIM（疣贅、低ガンマグロブリン血症、感染症、および骨髄異形成症候群）症候群と関連しています。異なるアイソフォームをコードする代替転写スプライスバリエントが同定されています。[RefSeq提供、2008年7月],代替製品:追加のアイソフォームが存在するようです,注意:当初は(PubMed:8329116およびPubMed:8234909)神経ペプチドYタイプ3(NPY3R)(NPY3-R)の受容体であると考えられていました。疾患: CXCR4の欠陥はWHIM症候群[MIM:193670]の原因です。WHIM症候群は、好中球減少症、低ガンマグロブリン血症、および広範なヒトパピローマウイルス(HPV)感染を特徴とする免疫不全疾患です。末梢好中球減少症にもかかわらず、罹患患者の骨髄穿刺液には成熟した骨髄細胞が豊富に含まれており、この状態は骨髄穿刺と呼ばれます。ドメイン:アミノ末端はリガンド結合に重要です。4つの細胞外領域すべての残基がHIV-1コレセプター活性に寄与する。機能:C-X-CケモカインCXCL12/SDF-1の受容体。細胞内カルシウムイオン濃度を上昇させることでシグナルを伝達する。造血および心室中隔形成に関与する。また、おそらく血管分岐および/または内皮細胞のリモデリングプロセスを調節することにより、消化管の血管新生にも重要な役割を果たす。小脳の発達に関与している可能性がある。中枢神経系では、海馬ニューロンの生存を媒介する可能性がある。HIV-1 X4分離株のコレセプター(主要受容体はCD4)として、また一部のHIV-2分離株の主要受容体として機能する。Envを介したウイルスの融合を促進する。オンライン情報:CXCケモカイン受容体エントリ,オンライン情報:CXCR4エントリ,オンライン情報:CXCR4変異データベース,PTM:O-およびN-グリコシル化。Asn-11はN-グリコシル化の主要部位である。Asn-176にはグリコシル化がほとんどないか全くないと思われる。N-グリコシル化は、実験室適応株および初代HIV-1株であるX4およびR5株の両方において、Env糖タンパク質との相互作用を阻害することで共受容体の機能をマスクする。O-グリコシル化コンドロイチン硫酸付加は、CXCL12/SDF-1alphaとの相互作用およびその共受容体活性に影響を与えません。PTM: Tyr-21の硫酸化はCXCL12/SDF-1alphaの効率的な結合に必要であり、その二量体化を促進します。類似性: Gタンパク質共役受容体1ファミリーに属します。サブユニット: 単量体。二量体を形成できます。HIV-1表面タンパク質gp120およびTatと相互作用します。組織特異性: 末梢血白血球、脾臓、胸腺、脊髄、心臓、胎盤、肺、肝臓、骨格筋、腎臓、膵臓、小脳、大脳皮質および髄質(ミクログリアおよびアストロサイト)、脳微小血管、冠状動脈および臍帯内皮細胞など、多数の組織で発現しています。検査したすべての組織においてアイソフォーム1が優勢です。

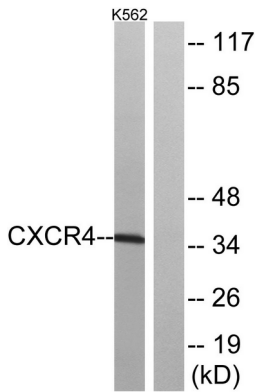
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、ケモカイン、エンドサイトーシス、軸索ガイダンス、白血球経内皮遊走、IgA産生のための腸管免疫ネットワーク。

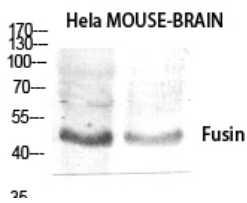
画像データ



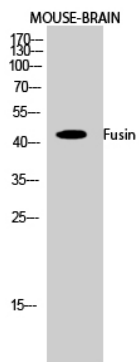
CXCR4抗体を用いたA549細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



CXCR4 抗体を用いた K562 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



1: 1000 に希釈した Fusin ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット分析



1: 1000 に希釈した Fusin ポリクローナル抗体を用いたマウス脳細胞のウェスタンブロット解析